

## 北条 鉄道

**Q** 4名の職員の欠員を、過剰人員の削減と言

われるが、手が足りずボランティアの人が事務所に入っていると聞く。この対応で安全運行が確保できるのか。そして法的な基準をすべてクリアしているのか。またこのボランティアが市長の甥で、給料が支払われているという話も聞く、その点にも答弁を求めぬ。

**A** 安全面での対策は、少しもおろそかにな

っていません。市も北条鉄道も、安全対策の会議などに積極的に参加して、日ごろから安全運行に留意しています。私が社長になってからは市の職員、私自身も国交省等に出向き、積極的に経営支援に資するよう動いています。

北条鉄道の業務は、現有勢力でお互いにカバーしながらアルバイトを雇用したり、市の企画調整課のスタッフの力も一部分担してもらって対応している。

北条鉄道への大学院生をボランティアとしている件は、緊

急避難的に私が助っ人を頼んだもので、その後現場からどうしてもパソコンのウィルスチェックもすばらしい能力があるということ、現場から採用したいという稟審が上が

12月の本会議でもやりますとのことだった。平成18年度予算に、宇仁小学校建設予算が計上されなかったのはなぜか。

**A** 私は、財政が厳しくても、学校をどうい

うふうにつくるかという原点が定まれば、PFIという民活手法等を活用してでも、学校は前倒して建設できると答弁してきました。



## 宇仁小学校建設

**Q** 宇仁小学校をPFIで建設は市長選の公

約。昨年9月の施政方針でも老朽化した学校の建て替えは先送りできないと発言され、

これまでの過去の経緯は承知していますが、いまの小学校がその場で建て替えられることが当然という時代の全体構想ですので、小・中学校の適正規模や適正配置をまず考え直すことが先決だと考えます。当初の構想段階に比べて、現在の社会経済情勢は相当の差異が生じ、多くの一般市民はもとより、地元の住民ですらまず建て替えありきの議論は時代に逆行するとの強い指摘もあり、そういう声を全く無視するわけにはいきません。経営改革委員会から、建設計画を一旦凍結すべきとの意見書も出されました。

てるかということ。現在、市内16の学校施設の老朽化している学校から、3年に1回ずつ建て替えても48年かかり、その間、大幅な人口増も望めない現状です。私としては、市内に五、六校の小学校が妥当という思いです。

## 鶉野飛行場跡地の払い下げ

**Q** まだまだ時間はかかると思うが、担当部

局も根回しされて、地元のホテル基地とも話し合われている。そういう中で、何とか払い下げには十分に対応していただきたい。

先日、加西市民も使えるような、温水プール、体育館、文化会館、また200人の新婚さんを呼んでもらうような隊員の宿舎、そういうものをつくらせていただきたいと防衛庁の事務次官にお願いしている。この青写真を考えていただけないか。

今出されている九会地区の区長さんからの請願や陳情も、全市を挙げての取組みとしたほうが国の方にも理解が

得やすいのではないかと。

**A**

この土地は、市民の税金によって有償で

払い下げられるか、あるいは全く無償となるかは読めませんが、仮に払い下げを受けた後は市民の皆さんの相当の税金を投入しなければ、跡地の管理も、将来の開発利用もできないと考えます。そういう点から、跡地は地元九会地区の市民のみならず、加西市全体、そして播磨圏域の皆さんの理解もいただいて、有効利用を図っていくべきと考えます。防衛庁等との交渉にも、確かな青写真、将来計画は不可欠で、しっかりとしたもの煮熟めて対応していきます。

最終的に防衛庁に対してお願いする場合には、鶉野飛行場の跡地にかかわるすべての区長もしくは加西市全体の区長の印があったものがそろえられて、防衛庁の方に持っていくというのが、加西市全体の総意ということで、依頼する礼儀、誠意と思ひ、実際の行動に向けては今後代表区長会等で準備をしていただくようお願い申し上げた次第です。